

(件名) (仮称) 日置市および鹿児島市における風力発電事業に関する陳情書

(陳情の趣旨)

八重山山系で計画されている風力発電事業は、多くの懸念事項を抱えた計画となっています。日頃、登山を愛するものとして、八重山は様々な面から守るべき山と思います。

1. 登山客への影響について

鹿児島市自然遊歩道に指定され、保健保安林でもある国有林八重山は、トレッキングの初心者コースとして登山ガイドブックにも記載され遠方からの利用者も多く、初日の出登山から始まり、自然散策、遠足、親子連れやサークル仲間、地域自治会などのハイキング、トレールランのトレーニングコース、野鳥観察会など様々な用途で季節を問わず老若男女に親しまれています。

自然遊歩道とは、多くの人々が四季を通じて手軽に、楽しくかつ安全に国土のすぐれた風景地等を歩くことにより、沿線の豊かな自然、歴史、文化にふれ、国土を再認識し、あわせて国民の健全な心身を育成し、自然保護思想の高揚に資することを目的として整備されている歩道と規定されています。

昨年4月30日に鹿児島市の許可を得て設置した登山者数調査のカウンターによると1年間で8,617名の登山者数を記録し、実質人数は1万人を超えるのではないかと推測されます。説明会では、多くの登山客が利用しているという事実を事業者は認識がなく、八重山の利用者への告知も未だありません。

計画では、自然遊歩道沿いのごく近くに建設されることとなります。風車は国内や国外から多数の事故事例が報告されています。山の天気は変わりやすく、急な雷雨など日常茶飯事です。風力発電機は雷を呼ぶとも言われ、落雷による感電や風車倒壊、強風による風車倒壊や回転ブレードの破損による飛散、騒音、発電機からの電磁波など多くのリスクがあります。

現在風力発電機のある鹿屋市輝北うわば公園キャンプ村や鹿児島市牟礼岡自然遊歩道などでは利用者が大幅に減少していると言われています。八重山でもこのまま計画が進むと他地域の例にもれず登山客も減り、キャンプ場や近辺の飲食業、温泉等の利用者も減ることが予想されます。

2. 絶滅危惧種への影響について

この地域は、絶滅危惧種のクマタカやヤイロチョウ、県の準絶滅危惧種の蝶キリシマミドリシジミの生息が確認される自然環境が深く豊かな森です。風車建設による31ヘクタールもの森林伐採と地形改変により生態系を乱すことは否めません。環境審査顧問会風力部会の専門家の意見でも、前例のない過激な工事との指摘がされています。そして事業者の「クマタカへの影響の程度は小さいと考える」という見解に対して「クマタカの行動圏が大きく変化する」と指摘があります。また、環境保全措置を講じてもお高い衝突予測数(バードストライク)が算出されており、万全な保全措置が行われるとは思えません。さらに、クマタカの繁殖や子育てへの影響が大きい敏感な時期にボーリング調査(ヘリによる調査機材の輸送を含む)を実施する等、クマタカへの影響を無視しているといえます。クマタカは自然環境が深く豊かでなければ生きることができません。

これらのことについて、以下陳情いたします。

記

- 1, 年間を通して、八重山ハイキングを楽しみに来る多くの登山客の安全を脅かす風力発電設備等の配置について、建設の取りやめや変更を求めるようご意見ください。
- 2, 経済産業省の勧告で指摘のあるクマタカやヤイロチョウの絶滅危惧種への影響、及びサシバへの影響が懸念される計画地については、風力発電設備等の建設とりやめや変更を行うようご意見願います。